

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	小野 泰正（6）	<p>1. 富士市の農地利用の姿を明確化する地域計画について  令和6年の一番茶の買取り価格も1キログラム当たり1000円台で底値は500円台であったとの報道が記憶に新しく、価格低迷をはじめ後継者不足等、近年の茶農業をはじめとした富士市の農業を取り巻く環境が厳しいと感じます。一方で、令和5年4月1日に施行された農業経営基盤強化促進法の改正により、農地中間管理機構の役割が強化され、地域に即した農地利用の集約化や生産効率の向上を図ることができるようになりました。そこで以下質問いたします。</p> <p>(1) 現在、富士市ではどのように農業経営基盤の強化に取り組んでいますか。</p> <p>(2) 農業経営基盤強化促進法の改正により、農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想は、総合的な計画を市町村が定めるものとされているが、富士市はどのように基本構想を定め、地域計画を考えていますか。</p> <p>(3) お茶においても、需要と供給のバランスが崩れたことが、価格低迷をもたらしています。地域計画をつくる上でも、消費の実態、市場の動き、生産状態の把握をした上で地域計画の策定や改定を行っていくべきと考えるが、富士市は現在どのような状況で、どのような仕組みをつくっていかうと考えていますか。</p>	市長 及び 担当部長